

令和3年度 小牧地区活動報告

小牧市学校図書館教育研究会

1 はじめに

今年度、小牧市学校図書館教育研究会では、図書室を「読書センター」としての機能に加え、「学習センター」や「情報センター」としての活用ができるよう授業実践を中心に研究を進めている。1人1台、タブレットが貸し出され、授業では学習道具の一つとして頻繁に使用するようになった。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、研究会の活動は中止や縮小になることもあった。しかし、コロナ禍であっても子どもの学びを止めてはならない。このようなときだからこそ新しい生活様式の実践と共に、子どもの心に寄り添った学校図書館の在り方、図書との向き合い方が大切であるとする。そこで外部講師を招いて読み聞かせや選書を中心に研修会を行った。

2 読み聞かせ講習会

小牧市の夏の教員研修会や小牧市内外の小学校などで幅広く活躍されている村瀬真奈美先生をお招きして、読み聞かせや選書についてなどを学ぶ講習会を行った。

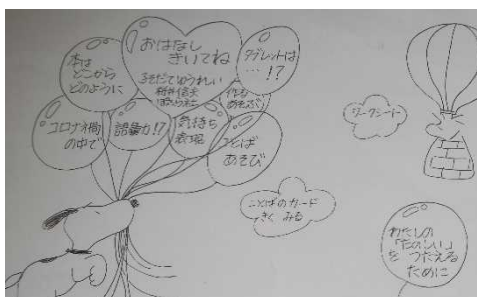
はじめに「子そだてゆうれい」という日本の民話絵本を語られた。始まりの「むかーしむかし」の言葉を耳にし、全ての部員がお話の世界に一気に引き込まれ、その場の空気が一変した。イラストがなくても情景が想像でき、次はどうなるのだろう、聴きたい、という緊張感と期待感が会場に生まれた。聴いていていろいろなことを感じる時間だったが、読み聞かせは「肉声」であることや、「語り手の雰囲気」「聴いている人に問いかける」ことが大切であることを教えていただいた。

続いて「雪渡り」という詩を紹介された。先生の指示により、その場で部員が3パートに分かれて詩の群読を実践した。多くの部員から、とても楽しかったから教室で子どもとやってみるという声が上がった。その他、ある言葉を見つけながら進んでいく迷路のワークシートや、語られたお話の中に出てきたたくさんの単語を見つけるワークシート、季節の言葉と出会いながら切って作れるお雛様のワークシートなどが紹介された。村瀬先生のワークシートはいつも全て手書きで、文字や素敵な絵は子どもたちの心を引きつける魅力と愛と温かさにあふれている。どれも子どもが夢中になって楽しめる工夫や仕掛けがされていた。

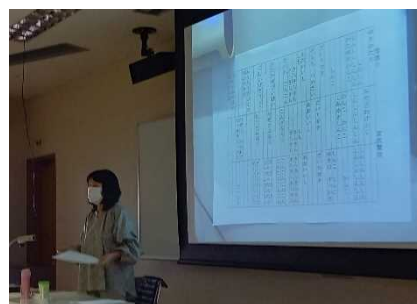
また、図書の選書の方法の質問に対しては、書店や図書館に行き、絵がいいなと思ったら片っ端から読んで、それから選んでいると教えてくださった。書店や図書館に足を運び、実際に手に取って、自分の目でじっくり見て選ぶことの大切さを改めて学んだ。



写真① 大人への読み聞かせ



写真② 部員からの質問をまとめたプリント



写真③ 3パートに分かれた詩の群読

3 おわりに

講習会の中で、子どもの気持ちを引き出すには、「大人が子どもの前で、気持ちを表す言葉をたくさん使うこと」が大切だというお話があった。気持ちを表す言葉を知って、初めて子どもは自分の気持ちを表現することができるという先生の言葉に全部員はうなずいていた。新型コロナウイルス感染症により子どもたちを取り巻く学校の環境は大きく変化した。新しい生活様式が求められているコロナ禍であるからこそ、子ども達の心に寄り添える楽しい本との出会いがより大切に感じられる。今後も子どものよりどころとなるような学校図書館を目指して全部員で取り組んでいきたい。